

[Meeting Report]

Faculty of Nursing and Rehabilitation, Aino University
Open Class Report “Spiritual Care”

Yuko Yamamoto*, Youko Honda*, Naoko Naito*, Mikiko Hirota*,
Yayoko Takemi*, Yasuhiro Oda*

*Department of Nursing, Faculty of Nursing and Rehabilitation, Aino University

藍野大学医療保健学部看護学科公開講座 「スピリチュアルケアについて」報告

山本裕子*, 本多容子*, 内藤直子*, 廣田美喜子*
竹見八代子*, 小田泰宏*

I. はじめに

老年期の発達課題である“統合性”と深く関わる概念に高齢者のスピリチュアリティがあり、スピリチュアルケアは高齢者が老いにおけるスピリチュアルな作業を行なうことを支援することである¹⁾。スピリチュアルケアについては、看護学のみならず社会福祉学・心理学・哲学・宗教学などにおいても研究がなされている。そのため、スピリチュアルケアについてより広い知識の教授を受けることは、学生にとって意味深いことであると考え。ここに、プログラムの概要と本公開講座を受講した本学学生の質問紙調査結果をまとめ、今後の公開講座の参考にしたと考え報告する。なお、本公開講座は藍野大学医療保健学部看護学科(以下、本学)主催で開催された。

II. 目的

高齢者看護の視点からではなく広義の高齢者ケアの視点からみたスピリチュアルケアについての知識の教授を目的とする。

III. 方法

1. 開催準備

本学の老年看護学山本准教授と関西学院大学人間福祉学部人間福祉研究科教授であったアンバックン博士は、研究テーマという点でのつながりを持っていた。山本准教授は、広義のスピリチュアルケアについての新しい知見を、学生・教員・臨床看護師および地域住

民に教授することは有益であると考えた結果、本学看護学科主催のもとスピリチュアルケアについて公開講座が開催される運びとなった。スウェーデン在住のアンバックン博士とは、メールにて日程等の連絡調整を行なった。その結果、開催日時はアンバックン博士が来日した翌日の平成24年11月9日(金)10:40~12:10に、テーマは「スピリチュアルケアについて」に最終決定した。企画委員達は、ポスターおよびプログラム、質問用紙の製作、当日の役割分担(司会進行、受付、写真、学生誘導など)などを、本学の事務職の協力も得て行なった。ポスターの配布は、大阪府下にある看護系大学12校と隣にある医療機関に送付し、地域における広報活動も行なった。

2. 講師および講演内容

1) 講師紹介

エルス-マリー アンバックン (Els-Marie Anbäckén) 博士は、スウェーデンのリンショッピン大学の「社会と福祉学部」教授で研究テーマは死生学および日本と



* 藍野大学医療保健学部看護学科

スウェーデンの高齢者ケアの比較研究である。アンベッケン博士は、ストックホルム大学において学士号（日本語学、英語学）を、さらにストックホルム大学日本研究所にて博士号を取得した。その博士論文の一部抜粋が、タイトル「Who Cares? —— スウェーデン人がみた日本の家族とケア ——」として出版されている。1998年からストックホルム大学で講師として「日本社会と福祉」を、その後リンショッピン大学ノルショッピン校にて「健康科学部福祉ケア学科社会ケア科学」の講義を担当し、老年科学研究所にも勤務していた。日本においては、2002年から大阪人間科学大学客員助教授として、その後、関西学院大学人間福祉学部人間福祉研究科の教授として2012年3月まで教鞭をとっていた。2012年4月にスウェーデンに帰国し現職に着任した。アンベッケン博士は、今後も日本における研究の継続と日本人との交流を深めていくと述べている。

アンベッケン博士は、大阪の堺市生まれで20歳前まで日本で生活をしてきた。そのため、日本語が堪能だけでなく日本文化や日本人についても造詣が深く、多くの日本人研究者のみならず地域の人たちとの交流を持っている。

2) 講演内容

人が生きていくために必要なことは、Existential issues（生きる意味、生きがい、人生観）が必要である。スピリチュアルは人間の存在に意味を与える根源的領域であり、生きる意味や人生に意味を見出す根拠となるものがスピリチュアリティである。そして、スピリチュアルケアは、人生のあらゆる事象に価値を見出すように導くことにより人間の心あるいは魂の健全を守ることができる。「高齢者施設ケアにおいてスピリチュアルニーズを扱う時間や場所があるか」を明らかにすることを目的に研究を行なった結果、スウェーデンにおける調査時に「多忙な業務の中でどのようにしてスピリチュアルケアができるのか」と問われた。福祉が進んでいるとされているスウェーデンにおいても日本と同様にスピリチュアルケアが行なわれていないことが判明した。次に、「スピリチュアルなニーズが無視されるといわれているのはなぜか？」を明らかにすることを目的に研究を行なった結果、ケア従事者はスピリチュアルな痛みを持つ人と同じ痛みを持たないことが多いため、その場しのぎの元気付けるような言葉がけを行い、ケア従事者個人の価値観でケアをしようとしていることが明らかになった。スピリチュアルな痛みを持つ人は、今の自分をそのまま受け入れて欲しいと願っているため、痛みを理解しない人のケアは何ら手

助けにもならないばかりか、傷つけることにもなる。スピリチュアルな痛みを持つ人に対してできることは、寄り添うことである。そして、その寄り添いは、寄り添うという行為をすることだけでなく、目の前に居る人のありのままを受け入れることである。死を迎えつつある人が死の話をする、職員は気まずくなって話をはぐらかしたり逃げたりしがちであるが、その人に寄り添い話に耳を傾けるそれがスピリチュアルケアである。患者や高齢者の身体を拭いたり、入浴の手伝いをする中で、その人が心の安らぎや生きていること存在を感じてもらえるような意味のあるケアをすることがスピリチュアルケアであると、しめくくられた。

3. 調査方法

本公開講座の受講者の評価を、9項目の調査内容を質問紙にて行った。

**藍野大学 医療保健学部 看護学科公開講座
「スピリチュアルケアについて」のおおね**

学生各位

平成 24 年 11 月 9 日
藍野大学医療保健学部看護学科長 内藤直子
企画委員長 山本裕子

本日は藍野大学 医療保健学部 看護学科公開講座「スピリチュアルケアについて」にご参加いただきありがとうございます。皆様のご意見やご感想をお聞きして、今後の公開講座の資料とさせていただきます。本学の看護学教育と学生の能力向上の資料としていきたいと思ひます。ご協力をお願いいたします。

1. 公開講座の会場について ①よかった ②どちらでもない ③よくなかった
2. 公開講座の時間について ①よかった ②どちらでもない ③よくなかった
3. 公開講座の広報について ①よかった ②どちらでもない ③よくなかった
4. 今後、公開講座があれば参加する
①参加する ②都合がつけば参加する ③参加しない
5. 本公開講座で印象に残ったことについて
6. 本公開講座の今後の活用について
7. 今後どのような公開講座を希望は何かについて
8. 公開講座の改善すべきことについて
9. その他のご意見をお書きください

あなたの学校名と学籍番号・氏名をお書きください
所属： 学籍番号： 氏名：

ご協力ありがとうございました。

本用紙は、会場出口の回収箱にお入れください。

4. 倫理的配慮

倫理的配慮として、質問紙への回答の有無は自由であることを説明した。質問紙の分析にあたっては、データをコード化し個人が特定されないように配慮した。なお、回答の有無によって受講者に不利益が生じ

ないことを述べ協力を求め、回答があったことにより同意を得たものとした。質問紙は、質問内容に対して講師からの回答がある場合を考え記名式としたが、そのことによる不利益は発生しないように勤め質問紙は分析後破棄した。

IV. 結果および考察

1. 開催結果

1) 日時・場所

平成24年11月9日(金) 10:40~12:10

藍野大学中央図書館 図書合同教室

2) テーマ

「スピリチュアルケアについて」

3) 講師

Els-Marie Anbäcken

(エルス-マリー アンベッケン) 博士

(スウェーデン・リンショッピン大学の「社会と福祉学部」教授)

4) 受講者

本学2年生と3年生の学生計131名であった。

5) 公開講座のプログラム

藍野大学 医療保健学部 看護学科
公開講座「スピリチュアルケアについて」

日時:平成24年11月9日(金)10:40~12:10
場所:藍野大学中央図書館 図書合同教室
主催:藍野大学医療保健学部看護学科
座長:内藤直子・山本裕子
企画委員長:山本裕子
企画委員:小田泰宏・廣田美喜子・竹見八代子・本多容子

プログラム

1. 開会の挨拶	藍野大学医療保健学部看護学科長	内藤直子
2. 講師紹介		山本裕子
3. 講演	「スピリチュアルケアについて」	エルス-マリー・アンベッケン
4. 記念品贈呈		本多容子
5. 質疑応答		
6. 閉会の挨拶	藍野大学医療保健学部看護学科長	内藤直子

講師紹介

大阪府堺市生まれ。
スウェーデン・ストックホルム大学日本研究所にて博士号取得。
ストックホルム大学講師、リンショッピン大学ノルショボン校助教授、
大阪人間科学大学客員助教授を経て、
現在、関西学院大学人間福祉学部教授・リンショッピン大学教授
アンベッケン先生は、日本語が堪能であるだけでなく、日本文化に対する造詣も深く日本語の
著書「WHO cares?」がある。その中で、スウェーデンと日本のケアの違いについて「スウェーデ
ン人は安心を求めるが、日本人は安全を求める」と述べている。

スピリチュアルケアとは

人生の意味や目的、価値や私語の世界の可能性(しを越えた将来)を新たに見出すことを支
えるケアをいう。スピリチュアルケアの指針としては、(患者が)死をも越えた将来を見出し新たな
現在の意味を回復する。死をも越えた他者を見出し、その他者から自己の存在意味を与えられ
る。近く、嗜好、表現、行為の中で自律を悟り、自己決定と自律を回復することである。
(引用文献 村田久行 臨床に活かすスピリチュアルケアの実践 3. ターミナルケア, 12(6), p521-525, 2002)

2. 質問紙調査の結果および考察

本公開講座の受講学生は131名(2年生101名, 3年生30名)であった。有効回答数は130部(99.2%)であった。

1) 本公開講座の受講者の感想(表1)

「公開講座の会場について」「公開講座の時間について」「公開講座の広報について」「今後公開講座があれば参加するか」の4項目を3件法にて調査した。

会場、講演時間については、80%以上の学生が「よかった」と回答した。広報については、2年生の60%が「よかった」と答えたのに対し、3年生では20%であった。3年生は臨地実習中であり、早めの開催告知が必要であったと考えられる。今後公開講座があれば参加するかについては、38.5%の学生が「参加する」と、59.2%の学生が「都合がつけば参加する」と回答した。「参加しない」と答えた学生はいなかった。

以上の結果より、講演会場および時間についての満足度は高く、今後の公開講座への参加希望も多かったが、「都合がつけば参加する」と答えた学生が多い点や3年生の広報に対する満足度を考慮して、今後は早めの講座開催のアナウンスが必要であると考えられる。

2) 今後希望する公開講座について(表2)

受講学生の意見を分析した結果、今後希望する公開講座の内容は大きく5つに分類された。「援助技術・ケア」では、スピリチュアルケアについての学びを深めたいとの意見をはじめ、ターミナルケア・緩和ケアなどに対する興味が示された。「海外看護」では、海外の看護を広く知りたいとの希望と、JAICAや国境なき医師団で活躍されている方の話を聞きたいとの意見がみられた。「現場の声」では、実際に働いている看護師の経験を聞きたいとの希望があった。「各専門領域」については、老年看護の他に小児看護や母性看護、災害看護についての講演を聞きたいとの希望があった。「その他」では、看護に関わることや人として大切なことであればどんなことでも聞きたいとの意見がみられた。

以上の結果より、学生はスピリチュアルケアをはじめとした「援助技術・ケア」や「海外看護」について今後も学んでいきたいと考えていることが分かった。このことから、本公開講座は学生のニーズに即した内容であったと推測される。また学生は、「現場の声」や「各専門領域」など実に多岐にわたる興味を有していることも明らかになった。さらに「その他」の記述で示されたように積極的な姿勢を示していることを踏まえ、今後は学生の興味関心に応え、その興味から学

表1 講座の感想

項目		よかった	どちらでもない	よくなかった	無回答
会場について	2年生 (n=101)	86 (85.1%)	14 (13.9%)	0 (0.0%)	1 (1.0%)
	3年生 (n=29)	27 (93.1%)	2 (6.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	合計 (n=130)	113 (86.9%)	16 (12.3%)	0 (0.0%)	1 (0.8%)
講演時間について	2年生 (n=101)	82 (81.2%)	15 (14.9%)	0 (0.0%)	4 (4.0%)
	3年生 (n=29)	28 (96.6%)	1 (3.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	合計 (n=130)	110 (84.6%)	16 (12.3%)	0 (0.0%)	4 (3.1%)
広報について	2年生 (n=101)	61 (60.4%)	36 (35.6%)	1 (1.0%)	3 (3.0%)
	3年生 (n=29)	6 (20.7%)	23 (79.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	合計 (n=130)	67 (51.5%)	59 (45.4%)	1 (0.8%)	3 (2.3%)

項目		参加する	都合がつけば参加する	参加しない	無回答
今後公開講座があれば参加するか？	2年生 (n=101)	44 (43.6%)	54 (53.5%)	0 (0.0%)	6 (5.9%)
	3年生 (n=29)	6 (20.7%)	23 (79.3%)	0 (0.0%)	6 (20.7%)
	合計 (n=130)	50 (38.5%)	77 (59.2%)	0 (0.0%)	12 (9.2%)

表2 今後希望する公開講座について

大項目	小項目	学生の記述の一例
各種ケア	スピリチュアルケア	もう一度アンベッケン先生の話が聞きたい。 他の先生のスピリチュアルケアについても聞いてみたい。
	ターミナルケア・緩和ケア	ターミナルケアについて聞きたい
	コミュニケーション	非言語的コミュニケーションの取り方
	グリーフケア	家族へのグリーフケアの仕方を聞きたい。
海外看護	海外の看護紹介	今までの日本らしい考え方とは違った視点で看護を学ぶ講座
	援助医療 (JAICA, MSF)	スーダンの医師川原さんの講座
現場の声	現役看護師の体験談	実際に働いている人の話を聴きたい。 死に直面している患者ケアをする看護師の話を聞いてみたい。
	専門看護師・認定看護師の話	看護師としての経験談、そこで学べたことなどの話
各専門領域	老年看護	高齢者と看護師のコミュニケーション・高齢者の心理など
	小児看護	小児看護、こどものターミナルケアについて
	母性看護	母性看護について。シングルマザー、虐待する親、様々な母親について
	災害看護	災害看護について学びたい
その他		教科書に書いてある定義では2~3行のことで奥の深さがあるということをもまだ知りたいたい。 看護に関わること、人として大切なことであればどんなことでも聞きたい。

習の幅を広げていけるような公開講座を企画していくことが肝要であると考えられる。

3) 結論

本公開講座で、スピリチュアルケアとは真摯な気持ちでその人をありのまま受け入れ心と心を寄り添わせていくものであるということを学んだ。

死生学を専門とされているアンベッケンによる本公開講座は、受講者のスピリチュアルケアに対する知識の拡大に有益であっただけでなく、心に響く講演であった。今後も、定期的に専門家を招いて受講者たちに多種多様な知識の享受のみならず地域への貢献を目的に公開講座の継続が望まれる。

V. まとめ

WHO 専門委員会報告書²⁾では、“spiritual”を「人間として生きることに関連した経験的一側面であり、身体感覚的な現象を超越して得た体験を表す言葉」と定義している。しかし、スピリチュアリティの概念が統一されているわけではないため多様な捉え方がある³⁾。

謝辞

本公開講座の講師となることを快く承諾してくださった Els-Marie Anbäcken (エルス-マリー アンベッケン) 博士に感謝すると共に、受講した学生たちが多くの学びを獲得してくれたことに感謝いたします。

文 献

- 1) 竹田恵子. 高齢者看護の観点からみたスピリチュアルケア. 老年社会科学 2010; 31 (4): 515-21.
- 2) World Health Organization. Cancer pain relief and palliative care: report of a WHO Expert Committee (WHO technical report series No. 804). Geneva: World Health Organization; 1990. (世界保健機関編, 武田文和訳. がんの痛みからの解放とパリアティブ・ケアーがん患者の生命へのよき支援のために. 東京: 金原出版; 1993. p. 48)
- 3) 河正子. スピリチュアリティ: スピリチュアルペインの探求からスピリチュアルケアへ. In: 緩和ケア編集委員会編. スピリチュアルペイン: いのちを支えるケア. 東京: 青海社; 2005. p. 368-74.